

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1173201144		
法人名	特定非営利活動法人 さくら・さくら		
事業所名	グループホーム さくら・さくら		
所在地	埼玉県比企郡ときがわ町大字玉川251番地		
自己評価作成日	平成22年11月17日	評価結果市町村受理日	平成23年2月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kohyo-saitama.net/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社ユーズキャリア		
所在地	埼玉県熊谷市宮前町2-241		
訪問調査日	平成23年1月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> * 利用者さんの個性に合わせた支援を心懸けている。 * 地域のイベントへの積極的参加。 * 利用者さんとの会話重視。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>当ホームは、地続きに併設の小規模多機能事業所があり、周りには田畑があり、日当たりも良く、広々としている。ホーム内もリビングには畳のコーナーがあり、ゆったりとしている。入居者の表情は明るく、自ら色々と話し掛ける雰囲気があり、入居者同士の会話がはずみ、笑い声が響き、ぬくもりが感じられる。地域とのふれあいを大切に、町内で行われる四季折々の行事には積極的に参加している。又、併設の小規模多機能事業所と合同で開催する行事は、地域の方との交流の場にもなっている。職員は入居者との会話を重視し、一人ひとりの意向を十分理解し、希望に添った支援になる様、日々のケアに努めている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「理念」は、ホームの玄関を入った所であり、毎日とは言えないが、見るように心懸けている。管理者及び職員全体が話し合う事は、今の所はしていない。	ミーティング時に確認し、日々の業務の中で管理者と職員で話し合いながら、その都度理念の内容に添うよう言葉掛けをしている。理念は、玄関、事務所内等目につきやすい場所に掲示している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のイベント、学校の運動会、町民体育祭等には、積極的に参加している。	自治会に加入している。回覧板等も回り、道路の除草や公民館清掃当番等、地域の役割に参加している。又、地域のイベントや学校の運動会、町民運動会等の招待状が届き、参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の人々に対しては、行っていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者家族さんの代表者、地域の委員さんとの意見交換、現在状況報告などを行っている。	年3回開催している。会議では、ホームの活動内容や入居者の状態等の報告をした後、意見等があまり出ない為、ホーム側から防災システム等の検討事項を提案し、話し合いを行い、サービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	理解できない事、事業所の現状など、機会があれば相談をしたり、話しをしたりしている。	ホームの空き状況等の報告や各種相談、介護保険改正に関して理解し難い点等の説明を求める等、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間は錠を掛けるが、日中は利用者さん、職員は自由に出入り出来るようになっている。	身体拘束は行っていない。徘徊の入居者は「行ってらっしゃい」と送り出し、職員が後から見守りながら歩いている。その時々職員間で話し合い、その方に合わせた対応を工夫しながら取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	身体的虐待は行われていない。虐待について話し合いの場は、設けられていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実施されている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	説明はされている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	機会を設けてはいない。来所時は、要望などを聞いている。	入居者には日常の関わりの中で、家族からは面会時や運営推進会議の中で聴いているが、入居者個々のケアに関する話題が多く、運営全般に関する意見等は出されない。	定期的な家族への入居者の状態報告と合わせて行事計画案等を伝え、それについての質問や意見、要望を聞く等、意見聴取の方法を工夫し、運営に反映する事が期待される。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	機会は設けてもらっているが、情報が途切れない様に努めている。	職員とは月2回のミーティングの中で入居者のケアについての提案や外出支援方法等業務の改善点について話し合いを行っている。又、職員の休憩場所を確保する等、意見や要望等を運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スタッフなどの申し出は、検討されている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	実践されている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	実践されている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人や家族の要望を確保し、安心して暮らしていただける様、関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の要望がほとんどになっていく。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要な支援の見極めが難しいが、いろいろなサービスで対応する様、努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	同じ人間としての生活関係を築く様にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族と良く話し合い、ご本人の要望や関係を大切にする様な関係作りに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ホームへ来所していただいた時は、関係が続くよう支援しているが、自宅へ行ってまでの支援はしていない。	家族や近所の人々が訪問している。その折には声かけ等をして雰囲気づくりをしている。また買い物等で外出した時に、以前住んでいた自宅に立ち寄ることもある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立しない様な支援をしているつもりではあるが、全員を同じ様に良い関係で支援する難しさがある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院等や別の施設移動時などには、相談に応じたりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意志を聞くよう努めているが、希望通りに行くには、難しい面もある。	日々の生活の中で、職員が入居者の動作、表情、行動から意向の把握に努めている。把握が困難な方は、家族等からも意見や意向を聞いた上で、本人本位に検討し、把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今までの生活、暮らし方の把握に努め、サービスに役立てる。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その方の心身状態や現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	課題を見出し、計画に反映実践していくよう努めているが、難しい面もあります。	アセスメントや日々の記録を下に、職員から入居者の身体状況を聴き、介護支援専門員が介護計画を立案し、ミーティング時に職員が意見等を出し合い、作成している。変化時には即見直しを行い、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	カンファレンス等を開催し、情報等を共有する様、努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時そのニーズに応じ、柔軟な支援を心懸けているが、難しい面もある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ときがわ町の行事に参加して、入居者さんの活性化に努める。(例 ときがわ祭り、運動会等)		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	他の介護職員と相談しながら適切な病院に連絡を行い、支援を行った。	入居時に「以前の主治医でもよい」と話し、その時は家族対応の旨を伝える。週1回協力医の往診(内科・歯科・リハビリ)がある為、全員協力医がかかりつけ医である。専門的な検査等が必要な時は、基本的に家族対応で受診をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ミーティング等や申し送りを通じて、他の職員と情報を共有して支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ホームの管理者と相談して、指示に従い行動する様、努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ホーム内の職員と、情報を共有して支援に努めている。	入居時にホームとして出来る事、出来ない事を伝え、出来得る限りの支援をしている。今後は重度化した場合に家族等と十分に話し合い、病状によっては、希望があれば終末期ケアを含め、その方のニーズに合わせた支援を考えていきたい。	入居者の重度化に伴い、今後はホームとしての指針を作り、早い段階から家族等や職員、主治医と十分な話し合いを行いながら、終末ケアについてもその方のニーズに合わせ、支援が行われる事が期待される。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルに従って行える様、心懸けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災訓練は、年2回行っている。夜勤帯を中心に行うと共に、地域の協力体制を築こうと、働きかけを行っている。	併設施設と一緒に夜間を想定し、夜勤者を中心に年2回訓練を行っている。避難出口や避難場所等を周知している。自治会でも災害時の体制作りを話合っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	年長者として尊敬する言葉掛けを心懸けているが、重度化している利用者には、出ていない部分もある。	人生の先輩方であることを共有し、言葉掛けやケア時にプライドやプライバシーに配慮している。誘導時等は、耳元でゆっくり、さりげなく伝えている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来る限り自己決定が出来るよう、支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人の希望がある時は、優先するようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人の好みを重視しながら、違和感のない仕度出来る様、支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューを相談したりしながら、食事作りを利用者さんで行うと共に、片付けを積極的に行ってもらう。	入居者と共に献立から調理まで行い、職員も一緒に楽しく食べている。行事食や弁当を作り、外で食べたり、外食にも出掛ける等、食べる楽しみの機会を設けている。食事形態もその方の状態に合わせて提供している。カロリーや栄養バランス等も栄養士の指導を仰いでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士による検食、カロリー計算、栄養素のチェックを行うと共に、水分補給に注意している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	週1回の訪問歯科医による口腔ケアと共に、毎食後の口腔ケアも行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自分でトイレに行くことが出来ない人には、時間を見てトイレ誘導をし、介助している。自分でトイレに行ける利用者さんには、心配もあるのでたまにはプライドを傷つけないよう、様子を見に行くこともある。	個々の排泄をチェックして排泄パターンを把握し、さりげない声掛けと誘導で、出来る限りトイレでの排泄支援を行っている。失禁時は声掛けに配慮してトイレに誘導し、対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	出来る限り食事に気を付け、軽い運動も毎日取り入れている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	業務時間中心の入浴になってしまっているが、入浴はゆっくり楽しんでいただける様、努めている。	基本的には週3回午後入浴となっている。1回が4～5人の入浴である為、毎日入浴出来る体制にはなっている。入浴が楽しみになる様、菖蒲湯や柚子湯等も実施している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼食後は、1時間位休んでもらっている人もいる。就寝前はテレビなどを見て、リラックスして休まれる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者さんに必要な薬、効能を知る様心懸けると共に、確実に服薬出来る支援を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	みんな同じ事は難しいが、歌、トランプ、テレビなどでコミュニケーションを取り、楽しんでもらう。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの外出は難しいが、皆さんと地域のイベント、ドライブに行く事がある。	その日の天候に合わせ、殆ど全員で散歩に出掛けている。近所の花見やドライブには頻繁に出掛け、伊香保の日帰り旅行に出掛けた事もある。家族の協力を得て、お墓参りに出掛ける方もいる等、外出支援を積極的にやっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理能力に応じて、所持していただく方と、お預かりしている方がいます。外出、買い物は支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族よりご理解と許可を得た上で、ご本人がやりとり出来る様に支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	掃除、調理、洗濯等に一緒に参加していただき、生活の場でもあるので、皆さんと飾り付けなど話し合い安心して過ごせる、居心地の良い場にしている。	日当たりが良く、畳コーナーもあり、ゆったりしている。調度品や手回り品が家庭的に配置され、煮物やご飯の炊ける匂いがして、生活感があふれている。入居者の作った手芸品や植木の鉢物が飾られ、入居者が思い思いに居心地良く過せるように工夫されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	安全管理の面もあり、目の届かない空間や場はないようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで使用していた備品や家具などを持参していただく様、ご協力いただいている。	ベットと押入れが備えられている。入居者が使い馴れた整理ダンスやリクライニングチェア、大切な家族の写真や趣味の品等を持ち込み、床に畳を敷いている方もいる等、各々居心地良く過せる居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	毎日の生活の中で、ご自分で出来ることは協力していただく様に声掛けし、納得の上参加していただく。		